

投資効果を測り 効果的な新台入れ替えを

文=片瀬宏之(ダイコク電機 DK-SIS首席講師)

競合店との戦いに勝つために、あるいは客数をアップさせるために、大型機種や事前期待が高い機種を大量導入する。こうした戦術が、果たして店舗に利益を生み出しているだろうか。ダイコク電機DK-SIS室の片瀬宏之室長に、効果的な入れ替えと今後の機械戦略について分析してもらった。



は翌10年も続きました。そしてパチスロの業績は改善されたのですが、業界はパチンコへの粗利依存をやめることができず、07年に750円だった4円パチンコの時間粗利はついに1000円を超えてしまいました。

この結果、20円パチスロのアウトは10%上がった一方、好調だった4円パチンコのアウトは突如として12%も下落しました。この後6号機の登場によりパチスロの業績が落ちるまで、4円パチンコは11年連続で業績下落が続くことになりました。

23年はまさにこの状況と重なりました。6号機のシェア拡大により20円パチスロの業績は大きく低迷。21年、22

昨年11月に「パチスロの登場によりさらにパチンコの業績が回復し、その結果『パチンコの遊技時間粗利が改善』されていくことを望みます」と寄稿してから1年が経ちました。スマートパチスロの導入、ユニットの確保に慌ただしかった1年も年末に近づき、もうすぐ今年も終わります。そこでDK-SISデータとともに2023年を振り返りたいと思います。

表1は4円パチンコと20円パチスロの年間および23年の月間推移データになります。今年からは年初から業界全体で4円パチンコにおける遊技時間粗利の改善を行わなければ、業績は10年と同様の動きとなると各組合で発表させていただきました。

どういふことかと申し上げますと、07年10月にパチスロの業績を支えていた4号機がすべて撤去されました。そして08年には完全5号機時代に突入し、パチスロの業績が大幅に下落しました。このタイミングでパチンコMAXタイプが台頭し、08年、09年とパチンコがパチスロの業績不振を補うようになりしました。

09年の業績はパチンコのほうが高かったものの、メーカーの試行錯誤が実って稼動貢献するパチスロ5号機は増えていきました。登場した機種の稼動貢献度はパチスロのほうが長くなるほど、人気となるパチスロ機種の登場

年と4円パチンコが業績を支える状況となりました。しかし22年に6・5号機とスマートパチスロが登場したこと、低迷を続けるパチスロ業績により、早く回復の兆しが訪れました。私は当時から、4円パチンコの遊技時間粗利を改善しないと、4円パチンコから20円パチスロにファンが流れる、さらには4円パチンコのキツさについていけないファンが離脱することで、再び4円パチンコは大きく業績を落としかねないと警鐘を鳴らさせていただきました。

しかしながら表1をご覧ください。ただきますと、4円パチンコの遊技時間粗利は1400円を突破し、業績はアウト、売上、粗利の順に、前年同月比100%を下回る結果となりました。月間で最もパチンコの機種台数が増えた2月や大型機種が登場した8月もアウトは前年同月を上回らず、新機種の導入効果が見られなれないといった状況となっています。

一方20円パチスロは好調が続く、アウトで前年同月比120%以上、売上・粗利で130%以上となりそうです。パチスロはやっとなり立ち立って、パチンコに業績を補ってやらなくてはならなくなりました。今後は積年の願いである遊技時間粗利の改善を目指していかなければなりません。

※10月データは10月1日～22日までの集計

4円パチンコ	2022年	2023年(1月~10月)	2023年									
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
アウト	11800個	11000個	12200個	11900個	10800個	11000個	10700個	10100個	11000個	11300個	10700個	10700個
遊技時間	2:29	2:17	2:32	2:27	2:14	2:15	2:13	2:05	2:15	2:20	2:13	2:13
売上	21,300円	20,800円	22,700円	22,100円	20,400円	20,500円	20,200円	19,000円	20,600円	21,300円	20,300円	20,300円
粗利	3,270円	3,260円	3,590円	3,310円	3,170円	3,200円	3,240円	2,970円	3,190円	3,490円	3,210円	3,220円
玉粗利	0.28円	0.30円	0.29円	0.28円	0.29円	0.29円	0.30円	0.29円	0.29円	0.31円	0.30円	0.30円
遊技時間粗利	1,320円	1,430円	1,420円	1,360円	1,420円	1,420円	1,460円	1,430円	1,410円	1,490円	1,440円	1,460円
アウト(前年同月比)	105%	—	98%	98%	92%	92%	86%	88%	91%	94%	92%	—
売上(前年同月比)	111%	—	103%	102%	97%	95%	91%	91%	94%	98%	97%	—
粗利(前年同月比)	112%	—	104%	103%	100%	100%	94%	94%	97%	101%	99%	—

20円パチスロ	2022年	2023年(1月~10月)	2023年									
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
アウト	6560枚	8040枚	7790枚	7660枚	7380枚	8420枚	8420枚	8010枚	8370枚	8320枚	8040枚	7950枚
遊技時間	2:54	3:31	3:25	3:22	3:15	3:41	3:40	3:30	3:39	3:37	3:30	3:28
売上	15,900円	21,300円	19,700円	19,400円	18,900円	22,100円	22,600円	21,600円	22,500円	22,500円	21,700円	21,600円
粗利	2,180円	2,870円	2,730円	2,580円	2,510円	2,920円	3,120円	2,920円	3,030円	3,110円	2,910円	2,840円
コイン粗利	0.33円	0.36円	0.35円	0.34円	0.34円	0.35円	0.37円	0.36円	0.36円	0.37円	0.36円	0.36円
遊技時間粗利	750円	820円	800円	770円	770円	800円	850円	840円	830円	860円	830円	820円
アウト(前年同月比)	99%	—	115%	118%	122%	136%	133%	135%	129%	123%	120%	—
売上(前年同月比)	97%	—	119%	126%	131%	150%	152%	154%	145%	136%	132%	—
粗利(前年同月比)	94%	—	111%	125%	130%	149%	151%	156%	145%	135%	132%	—

遊技時間粗利を改善するために

遊技時間粗利を改善できない理由として、業績の下落、遊技機価格の高騰、スマートユニットの導入などさまざまな要因があります。このような状況の中で、ホール企業の利益を生み出すために効率的な投資を考えていく必要があります。今の市場であれば、新機種購入はパチンコよりパチスロに投資を回すほうが効率的でしょう。

しかしながらパチンコへの投資を全くしないわけにもいきません。そこで機種購入の際に効果を上げやすい購入の仕方について、ヒントをお伝えさせていただきます。特に大型機種購入時の参考となればと思います。

『Pフィーバー機動戦士ガンダムSEED』を用いて、実績データを検証します。4円パチンコの台数規模別にPPM管理の花形シェアを基準として、設置台数の5%以上導入した店舗を分析しました。どの台数規模でも同様の傾向だったため、今回は4円パチンコ400台以上と1000台・2500台の店舗で自店の花形シェア30%以上で営業している店舗と、25%未満しか作れていない店舗を分析しました。

PPM管理の基本な考え方は、問題点を少なくする10%以下を目指すことと、花形を30%以上にするこ

で、店舗のアウトと粗利が上がってきます。表2・1は4円パチンコ台数400台以上で種別ランク8〜10の店舗です。花形シェア30%以上の店舗のほうが、25%未満の店舗より4円パチンコの店舗平均アウトが高い結果となっています。

25%未満の店舗は問題児シェアが大きいという特徴もあります。問題児は「活用を辛く変化させる」か「撤去・減台」の2択が対応策です。同機種を5%以上導入した店舗は、どちらも約40%程度導入しています。アウト支持率から稼動貢献を見ると、花形シェアが25%未満の店舗は7週目で100%を下回り、30%以上の店舗は6週目で下回っています。

同機種のアウト推移が同じような数値でも、店舗アウトの高い花形シェア30%以上の店舗は、新台効果が早く失われたことが分かります。またそれぞれの遊技機購入金額、設置されている台数の期間合計と記載)、その差額(減台している)のために購入した金額を表の下枠に記載。この数値を花形店舗と30%以上の差額(遊技機購入費残り金額)は25%・186万円も少な

続きはデジタルブックで
ご覧いただけます。
詳細はこちら▶